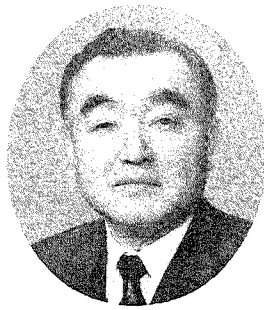


豊かさの実感できる

まちづくり



都倉昭二市長

平成八年の年頭にあたり市民の皆様にご挨拶を申し上げます。

戦後五十年の節目の年が過ぎ、二十一世紀に向かって新たな一歩を踏み出す記念すべき年を迎え、都留市がさらに住みやすく、豊かさの実感できる活力あるまちとなるよう決意も新たに誠心誠意努力してまいります。

いま、我が国が本格的な高齢化社会の到来を前にして、情報化、国際化等大きな変革期を迎えている今日、活力あふれる豊かなまちを築くためには、次代へ向けてのビジョンを明確にし、それに沿った具体策を着実に推進していかねばなりません。

このため、本市におきましては、地方分権がもたらす新しい時代の流れを的確に捉え、二十一世紀を展望した総合的かつ長期的な都市づくりを目指し、第四次長期総合計画の策定に取り組んでいること

ろであります。市民の皆様の見を市政に反映させるため、昨年十二月、市政について優れた識見を有する各界各層の市民、市議会、関係行政機関の代表の方など三十名で構成する「長期総合計画審議会」を設置したところであります。

この中では、市民医療のより一層の充実、都市基盤の整備、福祉の増進、教育環境の充実、農林業の振興、市の活性化を図るための商工業の育成等、本市の将来につながる重要な課題について、基本構想を定めるとともに、具体的施策について明らかにするための取り組みを進めることとなっております。

特に、当面の課題であります保健福祉活動の拠点となる保健福祉センターの建設、博物館構想の早期実現、下水道の整備促進、さらには谷村本町法能トンネル建設計画の推進、中央自動車道都留インターのフルインター化、国道一三九号都留バイパスの建設促進といった懸案事業は長期総合計画の中に主要事業として明確に位置付け、積極的に取り組んでまいっている所存であります。

このような状況下、私は、引き続き市民総参加対話の市政を信条とし、人間的なもの、精神的なもの

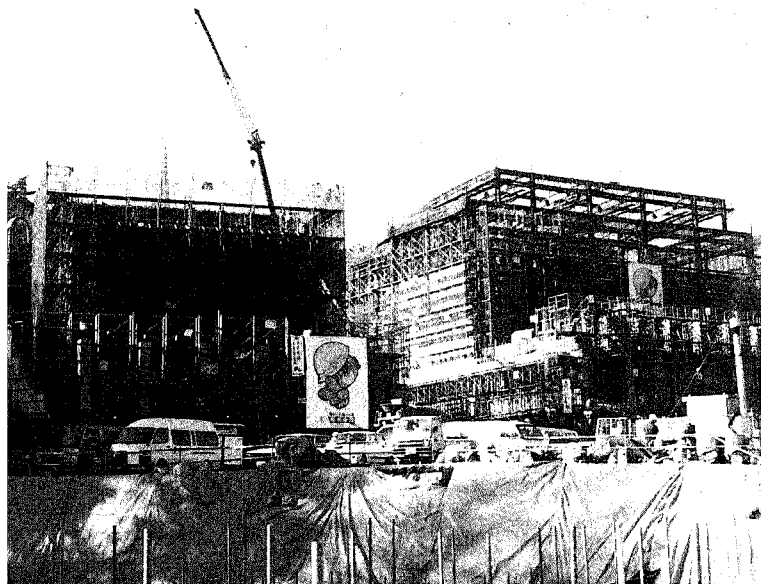
のにも目を向け、人と人との触れ合いを通じて、物心両面にわたるきめ細かな環境づくりに努めてまいりますので、市民の皆様のお一層のご支援・協力をお願い申し上げます。

質等についても、期待できるものと思えます。

今後は、市民の皆様のご健康づくりに活用してまいります。

次に、文化ホール建設につきましては、いよいよ本年十一月三日（文化の日）のオープンに向けて工事が急ピッチで進捗しております。

一方、運営計画につきましても、豊かな伝統文化の継承・発展と、音楽・演劇等幅広い分野で地域文化の振興を図るため、昨年七月企画運営委員会を設置する中で、育成事業、鑑賞事業、広報事業などについて具体的なご意見・ご提案をいただきました。



この委員会での貴重なご意見や、これまで多くの皆様より賜りましたご提案・ご要望につきましては、今後の運営に十分反映させ市民のニーズにあった事業推進に努めてまいりたいと考えております。

また、ホールの貸し出しにつきましては、先般文化団体をはじめ一般利用者を対象に説明会を開催し、昨

年十一月一日より大ホールの利用申請の受付を開始しております。

引き続き、本年五月からは小ホール、野外ホール、練習室等の受付を開始いたしますが、皆様のご利用を心からお待ち申し上げ、オープンに向けて一層のご支援・協力をお願いいたします。

次に、山梨リニア実験線につきましても、平成九年春に走行実験が開始されると相当数の見学者が本市を訪れることが予想されます。

この対応として、側道川茂・小形山線の改良を行い、大型車の通行を可能とするともに、指令センター隣の平坦地を利用した展望ホール、小形山地区から九鬼地区までの明り区間が一望できる見学スペース、駐車場等を県及び事業主体とともに整備してまいります。

また、昨年十月都留市観光協会が発足いたしましたので、民間活力を生かした観光振興にも取り組んでまいりたいと存じます。

次に、急速な高齢化や小児化、核家族化の進行、女性の社会進出等市民生活の変化に対処し、活力と生きがいのある長寿社会づくりを目指すため、老人福祉計画を策定し、各種施策の計画的、総合的推進を図っているところでありますが、援護の必要な高齢者や障害者ができる限り家庭や住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、各地区にふれあい福祉システム推進会議を設け給食サービス等の在宅福祉の充実に努めております。

今後さらに、地域住民のふれあいを基調とした多様なサービスを展開し、保健・医療・福祉の連携